

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立晴田小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究の「外国語活動」を通して、教職員の授業力向上を図ることができた。</li> <li>・業務改善及び教職員の働き方改革については、定時退勤日の遵守、「働き方の6か条」の作成等、高い意識をもって取り組むことができた。</li> <li>・学力の向上については、話し合い活動の充実やスキルトイの指導等に組織的に取り組んだが、十分に結果につながってはいなかった。</li> </ul>
2 学校教育目標	「心晴れ晴れ たくましく 学び伸びゆく 晴田っ子」の育成 ～地域に根ざし 夢に向かおう 晴田っ子！～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども達の学力向上については、1 2月調査の分析を基に、今後取り組んでいくことを全職員で共通理解し、児童一人一人の実態に応じた取組みを進めていく。</li> <li>○働き方改革、業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直し、職員個々の意識高揚を図りながら、引き続き超過勤務削減に努める。</li> <li>○青少年健及び育友会等と連携を深めながら、より具体的な社会に開かれた教育課程の実現に努める。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				達成度 (評価)	最終評価 実施結果	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組			
●学力の向上	●全職員による共通理解と組織的な共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・学校全体でマイプランを共有するとともに、日常の指導実践の中で、取り組みを進めていく。	A	・共通実践の自主学習への取組みにおいては、継続して取り組むことができ、ほぼ達成できている。また、全職員がマイプランの1学期の振り返りを見直しをして、2学期以降の実践につながることであったので、学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標では、約90%の教師が達成できたと回答しており、意識して取り組めたと考えられる。	学力向上コーディネーター 教務主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実  ◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●子ども一人ひとりに寄り添い、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努め、学校のいじめ防止対策への保護者の満足度を90%以上とする。  ●自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持があると言答する児童を80%以上にする。	・「月のこころ」アンケート、年2回の教育相談週間で一歩ひとりの子どもをしっかりと把握し、問題には即時対応する。 ・ケース会議を随時開催し、その内容を全職員で共有し、学校全体で共通した取り組みを行う。  ・全ての教科、学校行事等、さらに地域活動を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A  A	・随時授業後、随時の教育相談週間を設け、児童の心のケアに努めた。その結果、アンケートに基づき1対1で担任と話すことができたので、児童の心の安定につながった。また、不安感の強い児童に対しては、SCに付なぐることができた。 ・月のこころやいじめアンケートを活用し、いじめの兆候となる事案に即時対応した。結果、保護者の満足度を90%以上にすることができた。 ・夢や目標について考えさせる時間を意図的に設けたことにより、自らの将来に思いをはせる児童が増えきている。夢や目標をもっている児童もそうではない児童も、よい雰囲気の中でしっかりと自分の将来の姿を想像することができている。また、このことにより、様々な場面で学ぶ事柄を、自らの夢や目標等と関連付けて考え	教育相談担当 生徒指導担当 児童支援教員  教頭 教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎「朝食を毎日食べている」児童について、市の数値目標(95%)を達成する。	・年2回の晴田っ子アンケートで把握した朝食喫食率をもとに、手立てをとりながら学級指導や家庭科等で食の大切さを考えさせる。	A	・2回目の晴田っ子アンケートの結果、「朝食を毎日食べている」「だいたい食べている」と答えた児童は98%で、1回目とほぼ変わらなかった。しかし「あまり食べない」「ほとんど食べない」と答えた児童が3名で、1名減っている。食の大切さについて、家庭と連携しながら指導を続ける必要がある。	給食担当 食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●さらなる業務改善及び教職員の働き方改革	●教育委員会方針に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週火、金曜日を定時退勤日(18時)とする。 ・今年度も全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。	A	・11月以降は、全職員平均で超過勤務時間4時間以下を維持している。職員の意識も高く、各曜日の退勤時刻を見逃して業務を遂行している。 ・職員会議中に「晴田っ子 働き方の6か条 R2」を毎回表示している。取り組みの可視化・意識化を図ることができた。	教頭 教務主任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				達成度 (評価)	最終評価 実施結果	主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組			
○学習習慣づくり (学びづくり部)	○全職員による「学びの6か条」の共通理解と共通実践	○晴田っ子アンケートで「学びの6か条」に関する項目(9～14)において、できていると回答した児童の割合を80%以上にする。	・学びの6か条を週末にふり返る時間を確保し、日常的に取り組むよう意識を徹底させる。 ・週初めの立題タイムの際に、今週の学びのあてを放送で知らせ、周知徹底を図る。 ・人権教室や人権学習において、深考えさせたり多様な考えに気づかせたりする。 ・毎月の生活目標を振り返り、規範意識を高める。 ・授業実践やケース会議を活用して教員の配慮が必要な児童の理解を深めるとともに、インシデントプロセス法を用いたミニ研修会を行い支援の充実を図る。	A	・2月の晴田っ子アンケートでも「授業中、自分の考えを伝えようとしている」項目以外は約9割ができていたと回答している。10月よりも自分の考えを伝える場として、朝の時間に「トレーニングタイム」設けた。授業は、トレーニングタイムを実施し、1対1で話し合い、考えを伝えることに対する抵抗感は減って一定の効果があつたとと思われる。今年度コロナ禍ということもあり、授業中の意見交換の場を制限せざるを得なかったことと考える。ほぼ目標を達成できた。	学びづくり部
○人権が尊重される集団作り (自分づくり部)	○人権が尊重される集団作りを回り、自己肯定感を高める取組み	○子ども一人一人に寄り添い、「学校は楽しい」と答える児童を85%以上にする。	・人権教室や人権学習において、深考えさせたり多様な考えに気づかせたりする。 ・毎月の生活目標を振り返り、規範意識を高める。 ・授業実践やケース会議を活用して教員の配慮が必要な児童の理解を深めるとともに、インシデントプロセス法を用いたミニ研修会を行い支援の充実を図る。	A	・11月の「月の心」のアンケートでは「学校が楽しいですか。」の問いに、肯定的な回答をした児童の割合は83%で、目標を達成することができた。否定的な回答をした7%の児童を、引き続き重点的に支援していく。 ・児童支援会議では、全体会とケース会議を計画的に行うことができた。インシデントプロセス法を用いて、児童理解と支援の検討を行い、支援の充実を図ることができた。	自分づくり部
○自主的・実践的な態度づくり (仲間づくり部)	○より豊かで安全な集団生活となるように、出番・役割・ふり返り・称賛を心がけ、積極的に実践しようとする態度を培う取組み	○たわわり活動(掃除・遊び)について肯定的な回答をする児童を85%になるようにする。 ○ヘルメット着用及び防犯ブザー携帯について、肯定的な回答をする児童100%を目指す。	・学級活動や集会活動、上級生がリーダーシップを発揮できる縦割り班活動などの感想交流や振り返りカードで、自分や友達の良い姿を見つけて、活動意欲を高める。(定期的リーダー会議を行う) ・毎月安全点検日に防犯ブザー携帯とヘルメット着用の確認を行い、意識を高める。	A	・リーダー会を実施することができ、後期掃除への移行、5年生への引継ぎもスムーズに行うことができた。たわわり遊びの時間にも配慮した実施ができたので参考にもなった。活動について肯定的に回答している児童は95%を超えた。 ・ヘルメット着用、防犯ブザー携帯は、ほぼ100%達成できた。点検結果を全職員で共有し、児童への指導を徹底し全校での意識をさらに高めることができた。	仲間づくり部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育						
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上等すべての取組について、共通して実践していく内容について全職員で共通理解し、組織力を生かして取り組むことができた。</li> <li>・働き方改革、業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直し、職員個々の意識高揚を図りながら、引き続き超過勤務削減に努める。</li> <li>・青少年健及び育友会等と連携をより一層深めながら、より具体的な社会に開かれた教育課程の実現に努める。</li> </ul>					